

新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における 民間英語試験の新たな実施形態

著者	鈴木 瑛子
雑誌名	東京海洋大学研究報告
巻	17
ページ	72-77
発行年	2021-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00002042/

[資料]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における 民間英語試験の新たな実施形態

鈴木 瑛子*

(Accepted November 26, 2020)

An Overview of New Operating Practices for Private English Tests

During and After the COVID-19 Outbreak

Yoko Suzuki*

Abstract: The purpose of this paper is to offer an overview of how private English test operators in Japan reacted and are adapting to serve potential and existing test takers during the COVID-19 pandemic. Three major standardized English tests, Eiken, TOEFL, and TOEIC, were selected as samples. All operators stopped administering on-site tests under the month-long state of emergency and are now coping with the new demand by stretching test availability beyond conventional practices. In response, TOEFL was the first to react with a new service that allows more variation in test taking sites. Restarted after the hiatus, Eiken's computer-based version is seeing an increase in the number of applicants. TOEIC went through several changes, such as imposition of a limit on the number of applications and adoption of a lottery system. Also, prior to the outbreak of COVID-19, it had launched an online version of the IP (Institutional Program) test, which is currently conducted on a self-monitored basis unless set otherwise.

Key words: Eiken, TOEFL, TOEIC, language testing, English education

第一章 はじめに

2020年8月現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、これまでの生活様式の変革が促されている。目下、感染のリスクを抑えるため、1.密閉空間、2.密集場所、3.密接場面を避け、一定のソーシャルディスタンスを取るよう注意喚起が行われているところである。

多くの業種が影響を受けるなか、本稿では、代表的な民間英語試験に焦点を当て、対応と実施状況をまとめる。「試験」は本来、一定の監督のもとに実施されることで、その信頼性が担保されている。また、特に英語のリスニング試験では、窓やドアを閉め、音源の妨げがない状態を作り出すことが通例となっている。しかしながら、これまでのように一会場に多くの受験生を集める実施形態では、前述の3密状態を招く危険性があり、急速な感染拡大のスピードに合わせた、短期間での対応が必要となった。

1. 英語試験への感染症拡大の影響

2. 英語民間試験の役割

* Global Education and Research Office, Tokyo University of Marine Science and Technology, 5-7 Konan 4-chome, Minato-ku, Tokyo (東京海洋大学グローバル教育研究推進機構)

日本では、複数の民間団体が、統一化された独自の英語試験を実施しており、英語教育において一定の役割を担っている。

1) 明確な学習目標としての機能

産業組織心理学で発展した目標設定理論では、明確且つ一定の困難度を備えた目標を立てることで、被験者のパフォーマンスの向上が見られると提唱されている¹⁾。この理論に倣えば、英語力向上をタスクとすれば、英語を使用した日常でのコミュニケーションなどを目標とすることが困難な学習者は、スコアや検定合格を目標に据えることで、学習パフォーマンスの向上効果が期待できる²⁾。

2) 教育課程との関わり

英語民間試験のなかには教育課程との深い関わりを持つものも見られる。文部科学省は小・中・高を通じた生徒の英語力向上推進のため、英語4技能を測定する民間の資格・検定試験の活用を促進している³⁾。また、英検、TOEFL、TOEICのスコアを単位認定の対象とする大学が少なくないことが明らかになっている⁴⁾。

3. 本稿の目的

本稿の目的は、各試験実施団体の公表する情報を横断的にまとめ、影響下における取り組みを概観し、今後の議論に向けた基礎的な資料を提供することである。

4. 感染症の感染拡大の動き

情報集約の前提となる、新型コロナウイルス感染症に関する主な動きに関し、日本国内を中心に時系列にまとめる。

表1 新型コロナウイルスに関わる出来事(2020年)⁵⁾

日付	出来事
1/16	日本国内初、感染例確認
1/30	WHO「国際的な緊急事態」宣言
2/27	全国一斉臨時休校要請
2/28	北海道緊急事態宣言
4/7	7都道府県に緊急事態宣言
4/16	緊急事態宣言全国に拡大
5/14	緊急事態宣言39県で解除
5/25	緊急事態解除宣言
7/22	「Go To トラベル」キャンペーン開始

世界的には1月より感染拡大への懸念が指摘されており、日本では、2月半ばより地域的な感染例の増加が見られた。そして試験と関連の深い教育現場では、特に、3月の一斉休校と、続く5月末までの緊急事態解除宣言まで、大きく

影響を受けたと言えよう。全国規模で試験を行う各試験団体は一定期間の中止を含んだ緊急のコロナ対策を行い、現在は新たな形態での再開へ動いている。

第二章 各英語試験概要と感染症拡大影響下での実施状況

本稿では、大学での英語科目単位認定に活用例が多く見られる3試験(英検、TOEFL、TOEIC)に焦点当て、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響と対応に関する情報の集約を試みる。

1. 英検

英検は、「実用英語の普及・向上」を目的とし、公益財団法人日本英語検定協会により運営されている。1963年に設立され、2019年度の年間受験志願者数は約400万人であった⁶⁾。

1) 試験概要

2020年8月現在、英検は3形態で実施されている。英検(従来型)、英検CBT、英検S-CBTである。それぞれの実施形態をまとめる⁷⁾。

表2 英検(従来型)

年実施回数	3回(一次試験6月・10月・1月)	
受験会場	全国指定会場	
実施級	1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級	
検定料	級により異なる。下記に一部を抜粋する。	
	準1級	8,400円
	2級	7,400円(準会場5,500円)
	準2級	6,900円(準会場4,900円)
	*準会場とは学校・企業などの団体での申込にて、申込団体が設置した試験会場を指す。	
試験時間	級により異なる。下記に一部を抜粋する。	
	準1級	2時間
	2級	1時間50分
	準2級	1時間40分
	表内リーディング、ライティング、リスニングの他、二次試験として別日にスピーキング10分程度がある。	
実施方式	解答用紙記入	
スピーキング実施方式	対面式	

表3 英検(CBT)

年実施回数	原則毎週土日（回ごとに年3回受験可）
受験会場	全国各テストセンター
実施級	準1級・2級・準2級・3級
検定料	級により異なる。下記に一部を抜粋する。
	準1級 7,400円
	2級 6,400円
試験時間	級により異なる。下記に一部を抜粋する。
	準1級 2時間
	2級 1時間50分
	表内リーディング、ライティング、リスニングの他、同日にスピーキング15分程度がある。
実施方式	コンピューター上の選択式とタイピング形式ライティングによる。
スピーキング実施形態	録音式

表4 英検（S-CBT）

年実施回数	原則毎週土日（回ごとに年3回受験可）
受験会場	全国各テストセンター
実施級	準1級・2級・準2級・3級
検定料	級により異なる。下記に一部を抜粋する。
	準1級 7,900円
	2級 6,900円
試験時間	級により異なる。下記に一部を抜粋する。
	準1級 2時間
	2級 1時間50分
	表内リーディング、ライティング、リスニングの他、同日にスピーキング15分程度がある。
実施方式	マークシート上の選択式と、手書き形式ライティングによる。
スピーキング実施形態	録音式

2) 感染症の感染拡大下のオペレーション

英検（従来型）は、2019年度第3回の二次試験を北海道で中止した後、2020年度第1回の一次試験を、当初予定されていた5月末より一ヶ月遅らせる措置を講じ、実施した。面接官と対面式で行うスピーキングでは、これまではマスク着用は認めないとしてきたが、現在では、面接官がフェイスシールドを着用、受験者はマスクを着用し、感染拡大防止策を取っている。

各地のテストセンターで実施する英検 CBT、および英検

S-CBT においては、2020年度4月実施予定分は中止し、緊急事態宣言が明けた5月9日より再開している。再開直後は、5日間、中止回の振替受験分の優先申込期間を設け、その後、一般申込に切り替える処置が行われた。7月には、S-CBTの累計受験者数が6万人を超えたと発表されている。

また、今後、自宅での英検 CBT 受験サービスに向けた開発に着手した旨が発表されている。AIと人によるオンライン試験監督システムで、2020年度中の開始が掲げられている。

2. TOEFL

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は、アメリカ合衆国のETS (English Testing Service) が主催元となっており、特に英語圏の大学や研究機関への留学の際に英語能力測定のためスコアが求められることが多くなっている。日本ではCIEE Japan (一般社団法人CIEE 国際教育交換協議会) が運営事務局として事業を展開している⁸⁾。

1) 試験概要

2020年8月時点では、日本において、TOEFL は、TOEFL iBT (Internet-Based Testing)、TOEFL iBT Special Home Edition (現 Home Edition)、TOEFL ITP (Institutional Testing Program) の3形態での受験が可能となっている⁹⁾。

これまで TOEFL は多くのリニューアルを経て現在に至っている。リスニング、リーディングの2技能を測るマークシート方式であった TOEFL PBT (Paper-Based Testing) から始まり、日本では2000年以降コンピューターで行う TOEFL CBT (Computer-Based Testing) が導入された。続き、日本では2006年を境に TOEFL iBT が開始されスピーキング、ライティングを加えた4技能の測定が可能となった。同時期に TOEFL CBT テストは全世界で終了した。TOEFL PBT は2007年に日本で終了し、その後2017年全世界で終了した。現在は、98%の受験が TOEFL iBT で行われており、例外措置的にインターネットが使用できない地域に限り、改訂版 TOEFL ペーパー版テスト (The revised TOEFL Paper-delivered Test) が年4回実施されている¹⁰⁾。

TOEFL iBT はこれまで、全国のテストセンターでの受験が行われてきた。こちらと同じ形式のものが、自宅などの一定の条件を満たした任意の場での受験が可能になったものが TOEFL iBT Special Home Edition である。

TOEFL ITP テストは、形式は、現在終了している TOEFL PBT テストと同様であり、リスニング、リーディングのみの2技能を測る。団体向けテストプログラムのため、個人での申し込みや受験は受け付けられておらず、使用範囲は受験実施団体内の英語能力測定に限定されることが多い。

TOEFL スコアは試験日から2年間有効とされており、留学などの場合には、有効期限内のスコア提出を求められる

ことが多い。

表5 TOEFL iBT

年実施回数	土日を中心とする月3~6回、年間45回以上。ただし、受験間隔を中3日空ける規定がある。
受験会場	全国各テストセンター
受験料	235米ドル
試験時間	3時間
実施方式	コンピューター上の選択式とタイピング形式ライティングによる。

表6 TOEFL iBT Special Home Edition (現 Home Edition)

年実施回数	週4日、24時間受験が可能。ただし、受験間隔を中3日空ける規定がある。
受験環境	他の者の立ち入りのない部屋、公共スペースでの受験は不可、など細かな指定がある。
受験料	235米ドル
試験時間	3時間 (TOEFL iBTと同様)
実施方式	コンピューター上の選択式とタイピング形式ライティングによる。(TOEFL iBTと同様)
監督体制	ProctorUを通じたAIと人間による遠隔監視がある。

表7 TOEFL ITP

年実施回数	実施団体任意設定
受験会場	実施団体任意設定
受験料	公開情報無し
試験時間	約2時間
実施方式	マークシート上の選択式による。スピーキングおよびライティングは測定技能に含まれない。

2) 感染症の感染拡大下のオペレーション

TOEFLは全世界で広く実施されており、日本では4月3日よりSpecial Home Editionの受験が可能となる発表が行われた。自宅での受験が想定されており、使用機器や受験環境に関する細かな要件が定められている。試験開始前には、カメラ越しでの身分証の照合が行われ、カメラに360度を映しての周辺環境の確認が行われる。試験中もカメラを通して常に監視され、不正を疑われるような素振りは控え、視線をパソコン以外に移さないことなどが注意事項として挙げられている。

上記の通り、厳格なりモート監督体制のもと実施されており、スコアは通常のTOEFL iBTと同様に公式スコアとして取り扱うことが可能である。

テストセンターで行われる形態は非常事態宣言の間は中止となっていたが、6月以降は再開されており、Special Home Editionの提供は、9月30日までの限定措置となっていたが、期限の定めのない延長と、暫定的措置を示すspecialを削除した「Home Edition」への名称変更が発表された¹¹⁾。

3. TOEIC

TOEIC (Test of English for International Communication) Programは、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (The Institute for International Business Communication、略称IIBC)により運営されている。TOEIC運営委員会が設置された1971年以降、「人と企業の国際化」の推進を目指し、日常生活やグローバルビジネスの場面での英語コミュニケーションを中心に出题されている。2019年度TOEIC Program全体における総受験者数は約241万人である¹²⁾。

1) 試験概要

2020年8月現在、TOEIC Programは、測られる技能及び習熟度により、5プログラムで実施されている¹³⁾。①TOEIC Listening & Reading Test (以降、TOEIC L&R) ②TOEIC Speaking & Writing Tests ③TOEIC Speaking Test ④TOEIC Bridge Listening & Reading Tests ⑤TOEIC Bridge Speaking & Writing Testsである。ここでは、最も受験者が多く、認知度の高い①TOEIC L&Rを中心に実施状況をまとめる。

TOEIC L&Rは、リスニングおよびリーディングの2技能のみを測る設計となっている。IIBCが運営し全国の指定会場で通常年8~10回実施される「公開試験」と合わせ、企業や団体が任意の日時や会場を設定し運営を手がける団体受験「IPテスト」が行われている。中でも大学生協が窓口機能を担う場合、「カレッジ TOEIC」という名称で呼ばれることがある。団体受験は実施団体内のスコア活用を主な目的としており、進行や管理体制の統一が図られていない。このことから、一般に、英語力指標としてのスコアの報告やスコアレポートの提出が求められる場合、「公開試験」のスコア結果のみが有効な資料として指定される場合もある。

表8 TOEIC L&R 公開テスト

年実施回数	10回 (1月・3月・4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月)
受験会場	全国各指定会場
受験料	6,490円
試験時間	2時間
実施方式	マークシート上の選択式による。

表9 TOEIC L&R IP

年実施回数	実施団体で任意設定が可能。ただし、年間8回が上限となる。
受験会場	実施団体任意設定
受験料	4,230円(受験者負担分は実施団体任意設定となる。)
試験時間	2時間
実施方式	マークシート上の選択式による。

表10 TOEIC L&R IP オンライン

年実施回数	実施団体で任意設定が可能。ただし、マークシート方式のTOEIC L&R IPとは別に、年間6回が上限となる。
受験会場	ネット環境のある任意の場所にて受験が可能。
受験料	4,230円(受験者負担分は実施団体任意設定となる。)
試験時間	1時間
実施方式	コンピューター上の選択式による。

2) 感染症の感染拡大下のオペレーション

TOEIC L&R 公開テストは、現在、感染拡大防止策と学習者への受験機会の提供の狭間で、難しい対応を迫られていると言えよう。

時系列に沿えば、もとより、2020年は東京オリンピック、パラリンピック開催を考慮した実施予定が組まれており、7月公開テストは実施せず、10月に2回の開催が予定されていたところである。

2月以降、感染症の感染拡大への懸念が広がるなか、3月、4月、5月、6月開催予定であった公開テストが中止となった。2019年度を基準とすれば、約40万人の受験機会が失われたと推定される。

2020年1月開催以降、半年以上の開催中止を経た後の9月開催分については、各地域における会場収容人数に合わせた定員制の導入と先着順での申込方式が発表された。結果、申込開始直後にアクセスが集中し、IIBCのサーバーが繋がりにくい状況となった。当初は2週間の申込期間が設定されていたところ、申込受付開始より数時間で、即日すべての会場の定員が埋まった。なかでも、受験希望者の多い大都市は早い段階で満席となり募集が締め切られたため、受験のために地方都市への移動を伴うケースも発生している。

続く10月4日開催分は、9月分同様アクセス集中によるサーバーダウンでの混乱を受け、以降開催分に関し抽選制申込への移行が発表された。10月25日以降の開催につい

ては、午前、午後の2回実施により定員数の増加が期待される。

一方で、TOEIC L&R IPは、2020年3月にオンライン版の導入が発表され、教育機関での新学期や多くの企業での新年度に当たる4月よりサービスが開始された。問題形式は従来のマークシート方式のものを踏襲しつつ、より短時間でスコア算出を行う試験設計へ変更が加えられている。

オンライン実施の場合、任意の場所からのアクセスが可能となり、受験環境の統一や確認の徹底が課題となる。このような、いわゆる不正防止の観点から、独自の監督体制を敷き信頼性を担保する大学や、しかるべき監督下の実施であったことを示す証明書類と共に TOEIC IP (オンライン) を提出スコアに認めると設定する大学が見受けられる^{14, 15)}。

7月以降、IIBCより、リモートでの監督者派遣制度が提供開始された。「公開テスト」のような、環境の統一化と不正防止機能は未だ備わっていないが、セルフチェックを越えた活用の選択肢を徐々に増やしている。

第三章 まとめと展望

感染症拡大の懸念が急速に広がる中、民間英語試験団体は、様々な課題を抱えながら、受験機会提供へ向け動いている。共通しているのは在宅受験への流れと、それに付随した監督制度の開発である。監督制度は、主にAIと人間による複数の方法を用い、セキュリティを高める方向が目指されている。

試験サービスを取り巻く今後の変化は、試験団体だけではなくテスト結果の受取先にもよってくる。これは、各試験団体がどれだけのテストセキュリティを担保できるか、という点のみならず、テスト結果の提出先(大学や官公庁、企業)が自宅受験の結果を認めるのか、という点であり、どのような形で対応が行われるのか、注視したい。

本稿は速報性の重視から、サンプル数を絞り、2020年8月時点の情報をもとに集約し、同年12月時点での変更点を追記するにとどめた。今後、当感染症の影響の長期化に伴い、より柔軟な対応の在り方が各団体で検討されていくだろう。これまでのような多くの受験者を一同に集め、監視を徹底させるといった実施方式が難しくなるなか、多様な形式で実施されるそれぞれのテストの妥当性、信頼性の検証については、今後の研究に期待したい。

参考文献

- 1) Locke, E. A. Toward a theory of task motivation and incentives. *Organizational Behavior and human Performance*. 1968, 3, p157-189
- 2) 鈴木瑛子. 目標設定と高パフォーマンスサイクルに基づく英

- 語教育カリキュラムの分析. グローバル人材育成教育研究. 2019, 7(2), p1-6
- 3) 文部科学省. 生徒の英語力向上推進プラン
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afiledfile/2015/07/21/1358906_01_1.pdf (2020年8月31日参照)
- 4) In'nami, Y., & Koizumi R.. Using EIKEN, TOEFL, and TOEIC to award EFL course credits in Japanese universities. *Language Assessment Quarterly*, 2017, 14(3), p 274-293
- 5) NHK. 特設サイト新型コロナウイルス時系列ニュース
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/> (2020年8月31日参照)
- 6) 英検. 受験の状況 <https://www.eiken.or.jp/eiken/merit/situation/> (2020年12月10日参照)
- 7) 英検. 英検公式ウェブサイト <https://www.eiken.or.jp/eiken/> (2020年8月31日参照)
- 8) CIEE. TOEFL テスト日本事務局ウェブサイト
<https://www.toefl-ibt.jp/> (2021年1月6日参照)
- 9) CIEE. TOEFL 受験者向けウェブサイト
<https://www.ets.org/jp/toefl/test-takers/> (2020年8月31日参照)
- 10) CIEE. 改訂版 TOEFL ペーパー版テストについて
<https://www.ets.org/jp/toefl/rpdt/about> (2020年12月10日参照)
- 11) CIEE 国際教育交換協議 2020年11月6日付プレスリリース資料にて、「TOEFL iBT Special Home Edition」は、2021年以降の継続実施と「TOEFL iBT Home Edition」への名称変更が発表された。
<https://www.cieej.or.jp/ciee/press/21/20201106.html> (2020年12月10日参照)
- 12) IIBC. 2019年度 TOEIC® Program 総受験者数は約241万人
<https://www.iibc-global.org/iibc/press/2020/p149.html> (2020年12月10日参照)
- 13) IIBC. TOEIC 公式サイト <https://www.iibc-global.org/toEIC.html> (2020年8月31日参照)
- 14) 横浜市立大学. TOEIC IP (オンライン版)
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/admis/graduate/toEIC-ip-online.html> (2020年8月31日参照)
- 15) 鳥取大学. TOEIC 公開テスト・TOEICIP 中止に伴う対応について
<http://www.admissions.adm.tottori-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/05/suisen.pdf> (2020年8月31日参照)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における民間英語試験の新たな実施形態

鈴木瑛子*

(* グローバル教育研究推進機構)

要旨：本稿は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の懸念が広がるなか、日本で英語試験を運営する民間団体の対応に関する情報を集約したものである。英検、TOEFL、TOEIC をサンプルとした。いずれのテストにおいても、非常事態宣言期間中は、すべてのオンラインでの試験実施は中止となったが、以降、従来の実施方法を越えたテストの在り方につき、実施、および検討が行われている。TOEFL はいち早く指定の試験会場以外での新たな実施形態での試験サービスを開始した。英検は、一定期間の中止および延期の後に再開し、コンピューターによる英検テストが受験者数増加の傾向にある。TOEIC は4回の中止に続き、定員制の導入、抽選方式での申込等、従来の申し込み方法に変更を加えている。TOEIC は感染症拡大以前に、団体向けテストのオンライン版サービスを開始しており、現在は独自の監督システムがない場合、受験者自身でのセルフチェックの用途で実施されている。

キーワード： 英検、TOEIC、TOEFL、言語テスト、英語教育